

イウカさんの OLÁ, HIKONE!



(olá[オラ]=ポルトガル語で「こんにちは」)

第12回 独立記念日

彦根の皆さん、こんにちは!

夏休みも終わり、最近の彦根の気候は、私の出身地であるサン・パウロ市の気候にとても似ているように思います。それだけでなく、最近の私は、日本のいろんなことがブラジルに似ていると感じるようになってきました。例えば、蒸し暑い日は、アマゾン地方の雨季の湿度と同じだし、冬になると、気温がかなり違っているけれど、ブラジリアのように乾燥しているなあと感じたりします。ですが、花見と紅葉はブラジルにはありませんので、日本にいる間にじゅうぶん楽しみたいと思っています。

植民地として始まったブラジル

さて、9月7日はブラジルの独立記念日でした。今回はブラジルの独立についての話を紹介したいと思います。1500年、インドに向かって航海をしていたペドロ・アルバレス・カブラウというポルトガル人が、ブラジルを「発見」しました。当時ポルトガルとスペインが結んでいた条約により、ブラジルはポルトガルの植民地になりました。「発見」というものの、そこには以前からインディオスと呼ばれる人々が暮らしていました。インカやアステカと違い、彼らは小さな集団で生活していて、大きな戦いをしたことがありませんでした。現在でも、多くのインディオスたちが、アマゾン地方などの都会から離れたところで、180以上もあるそれぞれの言語や、独自の文化を守って生活しています。

植民地となっている300年の間に、ブラジルは独自の文化、社会を持つようになり、ポルトガルよりも資源の豊かな、強い国に成長していきます。けれども、ブラジルの産み出す金やダイヤ、さとうきびやコーヒーなどの利益は、ポルトガル人によって持ち去られ、ブラジル人の手にはほとんど残らなかったそうです。そのため、ブラジルの各地方では独立の気運が湧きあがり、単発的な暴動が何度も起こるようになりました。

流血なく共和制へ

ブラジルがポルトガル王国から独立したのは、1822年9月7日のことです。世界のどの国でも独立への戦いは激しいものになることが多いようですが、ブラジルでは大きな戦争もなく、ほとんど交渉だけで解決しました。

そして1889年には、またも血を流すことなく、帝国から共和国となります。日本では明治維新が起こり、鎖

国政策をやめて、世界のたくさんの国々と交流を始めたころです。

9月7日にはパレード!

9月7日は、独立記念日として国の祝日になっています。この日には、国中のいたるところでパレードが開催されます。私は子どものころに、サンパウロのとても大きなパレードを見たことがあります。警察、消防団、軍隊の人たちが、パトカーや消防車、戦車といっしょに行進していたり、学生たちがそれぞれの学校の制服で参加していたりしました。もちろん、一般市民も参加していたのですが、移民でできた国・ブラジルですから、世界の色々な国からやってきた人々の子孫が、先祖の国の衣服を着てパレードに彩りを加えていました。参加していた人の数は、何千人か、何万人か想像もつきません。まるで、ブラジルの社会そのものが、次々と目の前を通り過ぎていくようでした。

私も、住んでいた区のパレードに参加したことがあります。私は日系人ですから、浴衣を着て出ました。200人ぐらいの小さなパレードですが、沿道ではたくさんの人が見てくれて、子ども心にもとてもわくわくしました。



パレードに参加する準備のできた5歳の私と3歳の弟カイオ

“Parada de 7 de setembro (9月7日のパレード)は、幼かった私にはすぐく楽しみなイベントでした。

ポルトガル語・最初の一步

今回は、ポルトガル語のあいさつを紹介します。

obrigado オブリガード ありがとう

De nada デ ナダ どういたしまして

Bom dia ボア ディア おはようございます

Boa tarde ボア タルデ こんにちは (Boa noite ボア ノイテ こんばんは)

Boa viagem ボア ヴィアージェン よい旅行を

Como vai? コモ ヴァイ お元気ですか?

Bem obrigado ベン オブリガード 元気です。ありがとう

E voc? エ ヴォセ あなたは?

Ate' o mes que vem! アテ、オ メス ケ ベン! また来月お会いしましょう!

(彦根市国際交流員 じょうこう 上甲イウカ)